

# カンキツかいよう病の春期の銅剤防除

本年は不知火、ポンカンといったこれまでかいよう病が問題とならなかった品種でも被害が見られている。

発生後の防除では、薬剤散布の効果を得られにくいいため、発芽前からの防除が重要



開花前のICボルドー(80倍)散布時にパラフィン系展着剤(アビオンE)を加用することで薬害が軽減

供試薬剤	薬害発生新梢率(%)
ICボルドー66D (80倍)	41.6
ICボルドー66D(80倍) +アビオンE (1,000倍)	26.0

## 葉や枝の病斑から病原菌が雨水で流出して新梢に感染

防除時期及び回数の違いがかんきつかいよう病防除効果に及ぼす影響(宮内イヨカン, 2006年)

試験区			発病調査 (5月29日)			発病調査 (6月29日)			防除価
3月31日	5月8日	5月31日	調査葉数	発病率	発病度	調査葉数	発病率	発病度	
40倍	200倍	80倍	200	0.0	0.0	200	0.7	0.1	98.9
	200倍	80倍	200	1.3	0.5	200	4.5	1.0	88.9
		80倍	200	9.8	3.8	200	18.5	5.5	38.9
40倍			200	7.7	3.1	200	13.0	4.0	55.6
40倍	200倍		200	0.7	0.2	200	2.5	0.5	94.4
40倍		80倍	200	2.5	0.7	200	8.7	2.3	74.4
	無散布		200	15.7	5.2	200	29.2	9.0	

※供試薬剤はICボルドー66Dを使用



新梢の薬害

春期の発芽前、開花前、開花後の3回防除が基本